

【会員通信】

愛媛県で5例目となるカトウツケオグモ (クモ目カニグモ科)の観察例

瀧野隆志・松田久司

2007年8月21日の午前9時、愛媛県喜多郡内子町で、クモ目カニグモ科のカトウツケオグモ *Phrynarachne katoi* の雌(図1)を確認したので報告する。本種は本州から南西諸島にかけての地域に分布し、樹木の枝葉間、葉上、草間のような場所に見られる(新海, 2006)。また、白黒のはっきりとした色分けと凹凸のある腹部背面が特徴であり、葉上に脚を折りたたんだ状態で静止した姿は鳥の糞に似ていることで知られる(山本, 2000)。新海(2006)はカトウツケオグモを、個体数は極めて少なく、希少種としている。本種の県内における記録は5例目になると思われる。

個体は内子町五百木の長岡山(環境省標準メッシュコード: 5032-2573)において実施された自然観察会の際に、受付本部付近の地表面で採集されたものである。本種が発見された場所は、8月18日に観察会のために全面的に草刈りが行われており、当日も一部で草刈りが行われていた。採集個体は第1・2歩脚の先端が黒くあること、黒褐色の頭胸部の周囲に白色の部分基部



図1 カトウツケオグモ *Phrynarachne katoi* の雌 (2007年8月21日 内子町)

は黄白色であること、腹部に多数の突起がないことなどが本種の特徴と一致した。採取個体を小枝に移らせ枝をゆすると、第1・2脚を広げ威嚇するような姿勢をとり、さらに枝をゆすると第1・2脚を広げたまましおり糸でぶら下がった。さらに枝をゆるとしおり糸を切り地面に落ち、全部の歩脚を縮めて動かなくなった。全部の歩脚を縮めているようすは、鳥の糞によく似ていた。採集個体は、写真撮影の後もとの場所に放した。

愛媛県下における本種のこれまでの記録としては、山本(2000)、山本・西川(2000)、および2006年8月30日付けの愛媛新聞の記事がある。それらの情報と、おのおのの確認ないし採集者に対しておこなった、地点の詳細についての聞き取り結果をまとめると、

- ・1992年8月22日と1994年7月15日 愛媛県喜多郡内子町中川小田深山溪谷(環境省標準メッシュコード: 5032-2731) 各雌1
発見者: 山本栄治
- ・1996年8月16日 愛媛県上浮穴郡久万高原町下畑野川久万高原ふるさと旅行村(環境省標準メッシュコード: 5032-4705) 雌1
発見者: 山本栄治
- ・2006年8月19日 愛媛県八幡浜市若山地区市民スポーツパーク(環境省標準メッシュコード: 5032-1306) 雌1
発見者: 水本孝志

であり(図2)、いずれも南予から中予にかけての山間部である。今後も類似の地点より発見されることが考えられるため、観察記録を積み重ねることで県下における本種の分布実態や生活史が解明されることが期待される。



図2 愛媛県内におけるカトウツケオグモの発見場所 ●印は本報告

最後になるが、撮影写真による種の確認をしていただいた鳥取大学の鶴崎展巨教授と、本種

の観察地点を地図上で確認していただいた山本栄治氏に感謝する。

引用文献

- 新海栄一. 2006. 日本のクモ. 文一総合出版, 東京. 335pp.
- 山本栄治. 2000. 小田深山溪谷におけるカトウツケオグモの観察. 小田深山の自然編集委員会, 小田深山の自然 I. 小田町, 愛媛県. 837-838.
- 山本栄治・西川喜朗. 2000. 小田深山とその周辺のクモ類. 小田深山の自然編集委員会, 小田深山の自然 I. 小田町, 愛媛県. 809-836.

(南予生物 15 : 52-53, 2007 年 9 月 10 日 受付)

連絡先 瀧野隆志 (〒797-1501 大洲市肱川町中居谷 1413)